

金澤教報

金沢真宗学院指導研修会 開催 北海道・アイヌ民族の 歴史と文化を学ぶ



昼食として用意していただいた「アイヌ伝統料理」

さる5月13日から15日まで、「和人(日本人)とアイヌ差別問題」をテーマに金沢真宗学院指導研修会が開催され、高乗敬和学院長をはじめ指導ら12名が参加した。

13日には、「北海道博物館」を見学し、副館長の小川正人氏からは展示のコンセプトを説明していただく中で、アイヌ民族の近代を学ぶにあたっては、日本からの視点、北東アジアからの視点を踏まえることの大切さなどを指摘さ

れた上で、北東アジアの中の北海道、自然と人との関わり、アイヌ文化の歴史、道民のなりたちの多様性などについて、お話を伺った。

14日は、午前中二風谷コタン(村)を訪ね、「二風谷アイヌ文化博物館」や工房、周辺施設を散策した。その後、アイヌ民族で、二風谷で農業を営んでいる貝澤耕一氏から、現代のアイヌの人たちの暮らしやアイヌ民族としての自分とどう向き合っているのか、その思いを聞いた。

昼食は、アイヌ民族料理研究家の貝澤美和子氏による「アイヌ伝統料理」を食材の説明を聞きながら頂いた。

午後は、「イオル文化交流センター」で、平取アイヌ協会会長の木村英彦氏から、かつてもともと



二風谷アイヌ文化博物館周辺での記念写真



刺繍が施されたアイヌ民族に伝わる衣服

この地域に住む人々と日本人(和人)との関わり

中で、差別を受けたというお話を聞いた。

3日目の15日には、白老町の国立「ウポポイ(民族共生象徴空間)」を訪ね、アイヌの舞踊を鑑賞し、ゲーム感覚の狩猟体験などを通して文化・言語に広く触れた。

「アイヌ」という言葉からイメージされてきた偏見や差別の歴史を学ぶというよりも、人と自然を愛し、大地のめぐみに感謝し、共に生きているアイヌの人たちの豊かな文化を感じることができた3日間の今回の研修であった。

坂本 学(金沢真宗学院指導)

能登教区「第53回同朋大会」 令和6年能登半島地震・ 奥能登豪雨物故者追弔法会

6月21日、七尾市にある能登教務所(済美精舎)において「第53回

教区同朋大会並びに令和6年能登半島地震・奥能登豪雨物故者追弔法会」(能登教区主催)が開催され、法要は大谷暢裕門首の御親修により厳修された。能登教区と金沢教区の改編を3年後に控える中、金沢教区からは教区会参事会員、教区門徒会常任委員等が団体参拝した。

勤行では『佛説阿弥陀經』の後、「正信偈」を同朋唱和にてお勤めし、会場を満たした約300名の声が堂内に響き渡った。真宗の教

えが深く根づいたこの地において、その「土徳」の深さを改めて実感するひとときであった。

勤行の後には、穴水町の門徒による感話があり、続いて木越渉宗務総長の法話があった。宗務総長は、自身のこれまでの歩みや地元への思いを交えつつ、「隣の念仏が聞こえなくなっている。それを取り戻したい」と語った。

この大会・追弔法会は、当日の趣旨文に記された「つながりの再生こそが過疎を超えていく一つの道」、その歩みを確かめる大切な場となった。震災から1年半という節目にあたり、3年後の教区改編の折には、石川県全体における真宗復興をめざし、能登・金沢両教区がともに納得のいくかたちで新たな歩みを迎えられることを願う。



法要の様子

金沢教区 同朋総会 ご案内

日時 9月18日(木)午後2時〜5時
場所 金沢真宗会館ホール
講師 金石 潤導氏
(北海道教区)

講題 青少年センター研究員「なぜ、若者教化なのか?」
今、わたしから始まる」

【日程】

14:00 開会
14:20 講義(60分)
15:40 班別座談会(50分)
16:30 座談会発表・質疑応答・まとめ
17:00 閉会

教勢調査によって、児童教化に偏り、18〜35歳の若者世代への教化が見落とされてきた実態が明らかになりました。悩みを抱える若者が新興宗教に惹かれるなか、伝統仏教は十分に寄り添えていない現状があります。

人とのつながりが希薄になった今こそ、仏法に立ち返り、隣にいる若者と共に聞法の間を築くことが大切です。

「一人の若者と共に聞法の座につく」ことから始まる教化を、ともに考えましょう。

※どなたでも参加できます
主催 真宗同朋会推進会議

真宗大谷派金沢教区

公式アカウント はじめました

Facebook

Instagram

